

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4491400067		
法人名	社会福祉法人安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブ むさし苑		
所在地	大分県国東市武蔵町系原2368-2		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年10月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者と職員が共に笑いあえるような、楽しめるような施設作りを行っている。ご利用者のふるさと訪問の支援を毎月行っており、施設に入所されても住み慣れたふるさととの繋がりを大切にしている。日常生活の中で行えるリハビリとして、「できる事はご自分で」の支援にも力を入れている。また総合記録表を用いて、ご利用者の排泄・睡眠・水分量などのパターン把握に努め、支援に生かしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・「一人ひとりの一瞬一瞬の輝きを」の理念を実践している  
 ・記録をもとに予防やケアの在り方に活かしている  
 ・食事も手作りで食材も地産地消を・・・  
 ・P・D・C・Aのサイクルで実践し利用者、職員の笑顔に繋がっている  
 ・人事考課制度を導入している  
 ・法人が大きいので安心して働いていて、職員に笑顔が多い

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は毎朝の全体朝礼で唱和しており、法人の理念を下に各部署の方針を掲げている。GHでは「私達のご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域と共に歩んでいきます」を皆で考え、実践に繋げられるように努めている。	毎朝の全体朝礼で法人の理念を唱和し、個々のネームプレートにも記されている。各部署での目標があり、グループホームでは「私たちはご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域と共に歩んでいきます」をスタッフ間で確認し、理念はグループホーム内に掲示され、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設1年目は基盤作りで一杯だったが、月2回こども園へ散歩やドライブをしながらの訪問をし交流を行っている。また地域のお祭りや行事などにも積極的に参加し、買い物支援もなるべく地域の店を利用するようにしている。	認知症デイサービスと触れ合うように隣接していて、行き来でき交流がある。また、地域の盆踊り・お接待・祭り・神楽などの地区の行事に積極的に参加し、地域の方々との交流が出来ている。買い物は地域の店を利用し、ふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と一緒に地域の行事やお祭りへ参加し、またGH周辺の散歩や買い物をし、認知症の方への支援の方法や症状について少しでも理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議で、毎月ご家族向けに発行している日常生活のわかる便りを、会議出席者に配布している。またパワーポイントを使用し活動内容や取組を発表し、質問や意見等を受けながらサービスの向上に生かしている。	2か月に一度の運営推進会議で毎月の行事を広報誌に掲載し、理解してもらっている。パワーポイントを使い説明をしている。家族やキーパーソン以外にも、さわか便りを送り、グループホームの活動や取組みが分かるよう情報発信し、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員2名が運営推進会議に出席して下さっており、実情を伝えている。また日頃から不明な点や質問等について市に連絡し返答をいただいている。	市より、課長と支所長が運営推進会議に出席している。自治委員や民生委員も出席あり。情報の共有もできて、協力体制の連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施しており、職員は必ず出席し報告書を提出している。またホームの施錠についても記録をとっている。基本は8時から17時までは開錠すると決めており、毎月の会場率は100%を超えている。	身体拘束をしないケアの実践を、法人と一緒にカリキュラムに沿って研修をしている。目標を決め、実践に向けて職員は出席後に報告書を提出し、次のケアに活かすための記録もある。例えば「ゴミの捨て方は丸めてから」など。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、職員個々の職員が虐待と思われることについてまとめ、それを勉強会の場で報告している。また、職員間でお互いの言葉遣いや行動などを見つけたら気を付け合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネは法人のケアマネ勉強会にて学ぶ機会があるが、それ以外の職員は学ぶ機会はあまりない。しかし、毎年4月の全体会議で理事長が権利擁護、倫理規定、守秘義務と言ったご利用者の権利擁護について説明、啓発活動を行っている。成年後見人制度については、活用したケースがなく知識不足なため、今後学んで行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が不安なく契約できるように分かりやすく丁寧な説明を行っている。特にご家族の不安や疑問には十分な聞き取りを行い、いつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族会を含めた忘年会を行っており、その場でご家族より意見をいただいている。また月に1度、第三者委員の来苑があり、ご利用者への聞き取りや現場の様子等の指導もある。	月に一度、第三者委員の来苑があり利用者の意見や様子等の指導もあり、サービスの質の向上に努めている。年に一回、家族を含めた忘年会があり、家族や利用者の意見や要望が反映出来る様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一月曜日にGH会議を行っており、その中で職員が意見を出し合っている。また法人で毎月、合同職員誕生会を行っており意見や提案を言える場がある。	毎月第一月曜日にグループホーム会議で、職員が意見や提案を出し合っている。法人で毎月合同の職員誕生会があり、運営に関する意見や提案を聞く機会が設けられており、言える場があり運営に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績効果表を年2回行っており、個人面談も行いそれぞれの意見を聞く機会を設けている。また面談で個人目標を立て、それがやりがいとなり向上心を持って仕事ができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはエルダー制度(3ヶ月間ま)を設けており、マンツーマンでの指導が行える。また毎月他部署との合同の内部研修があり、様々なテーマの勉強会が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のGH・小規模多機能合同の職員研修会を2ヶ月に1度行っており、各施設の事例発表やグループ討議を行っている。また地域ケアネットやホットネット等でも他事業所との交流の場があり、情報交換等が行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に遠慮がちなご利用者に対しては、日々の様子や1対1のコミュニケーションを通して不安な事や要望などをさりげなくみ取るようにしている。要望等は可能な限り叶えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に面会時等の際に、ご本人様の様子をお伝えするとともに、ご家族の想いや要望等を聞くようにしている。またご家族の不安がないように日々の様子がわかる便りを毎月発行し、遠方のご家族には手紙を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を第一に考え、会議等でその時々重要とされるサービス提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場としてできる事はなるべくご自分でしていただけるように支援しており、またできる事を通し職員側が教えていただいている。共同生活でそれぞれ役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外泊・外出はもちろんの事、旅行に行かれたり、毎日面会があるご家族や散髪をして下さるご家族・入浴をして下さるご家族もおり、家族と過ごされる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1度のふるさと訪問やお盆には墓参りへ行ったり、以前働いていた職場やご本人にゆかりのある場所へ出掛けるように努めている。	月に一度のふるさと訪問や、馴染みの場所やまつり事など自宅まで付き添ったり、以前住んでいた家に戻り庭の草むしりや花の苗等を持ち帰ったりと、人や場との関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性間の問題や性格の合う合わないがあり、そういった関係を把握した上で食事の席や外出ペアなど考慮して支えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1名が併設の特養入所となったが、GHのご利用者と面会に行ったりし馴染みの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションや行動等より思いをくみ取れるように努めている。またその思いも可能な限り叶えられるよう努めている。	ふるさと訪問や外出支援など、一人ひとりの思いを汲み取るよう努めている。天気のいい日は散歩しながらコミュニケーションを通じ、思いに添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所時にご家族より情報をいただいております。その他の情報もご本人との会話等から情報を得ている。その情報をもとに現在の状況と照らし合わせ支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタルチェックで身体管理を行い、健康に過ごせるように努めており、またご利用者一人ひとりの能力を引き出せるように固定観念にとらわれず様々なアプローチを行い、できる力を発見している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議で職員・施設長・統括・看護師とカンファレンスを行い、担当者はご家族にも電話や来苑時等に要望を聞いて計画書を作成している。	毎月のグループホーム会議で職員と一緒にモニタリングをし、担当者は家族からの要望も聞き、計画を作成している。見直しで変化のある部分は赤字でわかりやすく記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ワーカー日誌や個別の総合記録にケアの実施状況等を記入し情報共有を図りケアに生かしている。また特記事項については色を変えて記入し、分かり易いように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては可能な限り柔軟に対応しており、併設している特養なども協力しサービスの提供を行っている。新事業にともないサービスの多機能化も期待できそうである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが、地域の行事に積極的に参加したり、地域にある保育園に出向き交流を図っている。しかしまだまだ課題の多い部分でもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人個人で主治医が違っており、入所前から受診している病院を継続されている方がほとんどである。また急な発熱等もご家族が付き添いができない場合は、病院と連携をとって臨機応変に対応している。	以前からの主治医がおり、個人個人の希望を継続されている。急変時等は往診に応じてくれたり、外来診療は5か所になる。病院との連携も取れており、臨機応変に対応できる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師だけでなく、併設の特養の看護師にも毎日の状態報告を行うようにしており、情報を共有することで急変時等にはすぐに対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室と連絡を取り合い、状態等の情報をいただいたり、面会時等でも病棟看護師より詳しく話が聞けるように段取りもしていただいております、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設してから現在までターミナルや重度化対象の方はいないが、そのような場合は法人の看取り指針に沿って対応していく。またご家族とも密に連絡を取り合い話し合いを重ねていき、支援に取り組んでいく。またターミナルについての勉強会もあり、学んだ事を生かせるようにしていきたい。	法人の看取り指針に沿って、勉強会でも対応出来ている。同意書は状況に応じ対応出来る体制にある事を説明し、同意を頂いている。法人として、新型特養もあり、連携がとれている。開設後から現在までターミナルや重度化対象の利用者はいないが、対応出来る体制も取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で介護勉強会があり、その中に緊急時の対応について学んでいる。看護師が講師となり、AEDや酸素等の取扱いなどの実技もあり、実践にそなえて生かせるように訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練だけでなく、地域の消防団と合同で避難訓練を行っている。消防団の方々に即席の毛布でのタンカ作りの指導を受けたりしている。今回は、9月6日の国東市の避難訓練のあと、地域の消防団と防災訓練を行った。	地域の消防団と合同で避難訓練が行われ、毛布での担架の作り方や緊急の場合での消火器の使い方等を指導してもらっている。逆に、車椅子の避難の仕方を教えてほしいと言われ、次回は車椅子の扱い方を予定していて、建物の状況をふまえて訓練している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分に配慮しており、常日頃から気を付けている。声掛け等についても十分に気を付けているが、親しみもありつい慣れ親しんだ地元の言葉を使った声掛けを行う事もある。	プライバシーには気を配り、利用者の呼び名も家族や本人の思いに添っている。声掛けや対応の接し方も、一人ひとりを大切にしている。地元の使い慣れた言葉での声掛けも大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定することは当たり前に行えている。職員も自己決定の大切さを良く分かっており、自己決定できる機会をコミュニケーションの中で作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行っているが、対応困難者の対応等に追われたり、行事等があればどうしても職員側の都合を優先せざるをえない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方が多く、外出時や入浴後は好みの衣類を選んでいただいたりしている。また、お化粧品やフェイスマッサージをする支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑でできた野菜を収穫しその収穫した野菜を使用し一緒に調理をしたり、お楽しみ食事でバイキング形式にしたりお好み焼きを焼いていただいたり目を楽しめる食事の支援を行っている。	苑の周囲に畑があり、収穫した野菜を使用し一緒に調理をしたり、近くの道の駅で新鮮な食材がありバイキング方式にしたりと楽しめる支援に努めている。片付けは利用者自ら率先して行っている。調理方法など、利用者が作り方を教える事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた1日に必要水分量を出して補水を促している。また体重の増減や食べれる量に合わせても食事量を調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声掛けを行い、ケアの必要がある方は介助を行っている。歯間ブラシや舌ブラシが必要な方には個別で対応している。また特養に歯科衛生士がいるため、必要時は状態を診てもらい、Drにも連絡をしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合記録表より排泄パターンを把握し、失敗のないように、またなるべくパットを使用しないように取り組んでいる。GH入所に伴いパット・尿漏れ下着が外れた方もいる。	総合記録表があり、排泄の時間・量・失禁など一目瞭然である。介護度の軽い方が多く、声掛けでトイレ誘導し自立している。オムツ使用もなし。ファンレストテーブルが便器前にあり、排泄の折には腹圧がかけられる様になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米食を取り組んでおり、下剤を使わない支援を行っている。玄米の効果がありすぎる場合は白米で対応したり、出にくい方は白米と玄米の割合を都度調節している。散歩等の促しや腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めておらず基本毎日、入浴を行っている。季節に応じた湯(ゆず・菖蒲等)や入浴剤の使用で楽しめるように工夫している。入所当初は拒否の強かった方も今では大好きになっている。	基本的には毎日入浴出来るようになっている。スタッフの負担軽減を考慮し、福祉用具がうまく活用されている。入浴剤などを利用し、季節に応じた対応も出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し夜間に安眠できるよう支援している。眠くなるまでスペースで塗り絵をされる方や職員と談話される方、居室で過ごされる方など様々である。必要な方には安眠効果のあるホットミルク等を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人事に処方箋をファイルしている。処方の変更時には日誌に記入し変更になったの日や状態変化等も分かるようにしている。また詳しい副作用についてもインターネットで調べたり薬剤師に確認したりし、半減期についても調べる事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の生活歴よりそれぞれの得意な事が生かせる事を日常生活の中に取り入れており、またケアプランの反映もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や盆踊り、お寺のお説法を聞いたり、イルミネーションを見に行ったり外食や観劇などを行っている。ふるさと訪問も行っており、墓参りなどをされ方や家の近所の方と交流をされる形もおり、外出を楽しみにされている。	集団での外出は年に2~3回で、個々の希望によって個別の対応あり。外気浴は利用者によっては毎日の人もいて、中庭で食事をする事もある。お墓参りや外食なども支援されている。地域の行事やふるさと訪問でも外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っているが、買い物支援などの際はご自分で支払っていただいたりしている。中には職員作成のお金を持ち喜ばれる方もおり、お礼でそのお金を職員に配りさらに喜ばれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んでいる方がいるが、使用方法がわからないため着信があれば職員がかけなおし取り次いでいる。またご家族より電話があれば取次ぎ、GHからかける用事がある場合にもかわる事もある。時々手紙を書かれる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にスペースや玄関のディスプレイを変更したり、季節の花々を飾っている。ただ異食がある方もいるので、生花を飾る際は場所などに注意している。風呂場は温泉マークで分かりやすくし、キッチンも対面式で調理の様子も見れ、家庭らしさを大切にしている。	季節に応じて玄関や共用空間に花や作品が飾られている。手作りが多く、ほのぼのと温かみを感じ、和やかな雰囲気作りがされている。お風呂は♾マークののれんがかけられている。キッチンも対面式で職員と利用者が会話しながら作業出来ていて、明るい感じがする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に共有スペースが2つあり、それぞれ自由に使い、気の合ったご利用者同士で好きな場所で過ごされたりしている。食卓も気の合う方同士、席の配慮も行っている。また気候のいい日は外のテラスで過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や寝具を持ち込んでいる方や、ご家族の写真やご本人の作品などを自由に飾られている。中にはご主人の遺影を持ち込まれている方もおり、毎朝、お茶をお供えされている方もいる。	馴染みのある家具を持ち込んでいる方や、使い慣れた品を持参し、家にいた時と同じように自由に使われている。家族の写真や作品が飾られ、落ち着いた雰囲気で過ごせるよう工夫されている。自分のおやつを自室で御主人の遺影にお供えする方もいて、まさに我が家である。	

事業者名:さわやかクラブむさし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い方や場所が分からない方には分かりやすい様に説明表記に努め、庭の段差についても転倒された方がいたのですぐに改善した。また特養の洗濯物たたみを手伝っており、特養の協力にて2名の方は職員の付き添いなしで特養に配達していただく支援も行っている。		